第９１回全国書画展覧会　審査長　紹介

書 写 の 部

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官

豊　口　和　士　　先生

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官

鈴　木　太　郎　　先生

画　の　部

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官

小　林　恭　代　　先生

第９１回全国書画展覧会「書写の部」の審査を終えて

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官　豊口和士

まずは、第９１回全国書画展覧会「書写の部」に出品されたすべての児童・生徒の皆さんの出品に向けてのご努力を讃えたいと思います。そして、見事受賞された皆さん、本当におめでとうございます。ご指導に当たられた先生方、ご支援くださったご家族の皆様におかれましてもお喜びのことと存じます。心よりお祝い申し上げます。

審査を通しまして、どの出品作品からも日頃の学習の成果が確かに見て取れ、出品された全国の児童・生徒の皆さんが熱心に学習し作品制作に取り組まれて様子や思いが伝わってきたことを何より嬉しく思います。

一般社会では、多様なＩＣＴ機器が進展し続け、人工知能ＡＩの活用が生活の中の様々な場面で一層期待されています。しかし、文字を書くという行為がＩＣＴ機器やＡＩ、ロボット等に取って代わられることはないと思います。

私たちは、なぜ手書きされた文字や言葉に対して特別な想いを抱くのでしょう。それは、手書きされた文字や言葉から情報内容を受け取るだけでなく、手書きする際の運筆や息づかいから書き手の思いや気持ちも感じ取っているからです。喜びや希望、感謝の気持ち、私はここにいるよというメッセージ、私はこういう人間ですという思いが、手書きされた文字や言葉によって書き手と読み手で共有され、確かに伝わるのです。とりわけ、毛筆で書かれた文字や言葉がもつ多彩な表現とその美が、日本社会で長きにわたって共有され大切にされてきたことが、文字文化を支えてきたといってよいでしょう。毛筆書写を通して、日本の伝統と文化を体験し味わっている皆さんには、手で書かれた文字や言葉、毛筆で書かれた文字や言葉の価値や魅力を今後も更に味わいながら、今後も生活の中で自分自身と向き合い、自分自身を豊かに伝えていってほしいと思います。

本年度の内閣総理大臣賞「成長」、文部科学大臣賞「出発」、「栄光のかけ橋」は、学校教育における書写の学習の成果がそれぞれの学年に応じて確かに発揮されているとともに、毛筆で書くことの楽しさが伝わってきました。それぞれが確かな文字の構築性、運筆の正確さと流麗さに優れており、毛筆の特質・特性を生かした表現の魅力が見事に結実した素晴らしい作品です。小学校・中学校の国語科の書写において毛筆を使って学習することは、硬筆だけでは学べない点を学ぶことが目的であり、それはまさに運筆を体験し理解することであり、手で文字や言葉を書くことの価値や意義を体験的に学び理解するということです。

小学生の皆さんは、毛筆による書写の学習だけでなく、硬筆を使った普段の生活の中でも文字を正しく整えて、丁寧に書くことを心がけてください。中学生の皆さんは、目的意識・相手意識を持って、豊かに伝えるために効果的に書くことを心がけ、書写の学習以外でも身の回りの多様な表現や文字文化の豊かさに目を向けてみてください。

最後に、全国書画展覧会の運営にご尽力いただきました皆様に敬意を表するとともに、本展覧会が日本の伝統と文化の継承と理解の推進に益々寄与され、子供たちの確かな成長と我が国の「文字文化」ならびに「芸術文化」の進展にさらに大きな役割を担うべく、一層発展されることを祈念いたしまして審査講評といたします。

全国書画展覧会（書写の部）　令和５年度の審査を終えて

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官　鈴木　太郎

全国書画展覧会は本年度で第９１回の開催となり、今回も全国各地から数多くの力作が集まりました。それらの作品には、小学生、中学生の皆さんが取り組まれた練習の成果が発揮されており、小・中学校における書写指導が充実していることが感じられました。

さて、小・中学校の国語の授業で毛筆を使用して行う書写の学習は、硬筆による書写の能力の基礎を養うことをねらいとしています。具体的には、毛筆を使用して文字を丁寧に書くことで、点画や点画の書き方への理解を深めることなどが考えられます。また、毛筆には、穂先の柔軟さが筆圧を吸収し、強弱のあるリズミカルな運筆を可能にするという特性がありますから、この特性を生かして、書き始めから書き終わりまでを無理なくつないで書き進める効率よい書写のリズムを習得することなども考えられます。これらのことは、我が国の豊かな文字文化を理解し、継承、創造していくための基礎ともなるものです。

審査に当たっては、このような小・学校での書写の学習を踏まえて正しく整えて書かれているものを選ぶように努めました。入賞した作品に共通しているよい点としては、用紙全体との関係に注意しながら文字の大きさ・配列などを考えている、点画の種類を理解して適切に書いている、点画のつながりを意識して書いている、行書の特徴を理解して書いている、名前の書き方・用紙の扱い方も含め丁寧に書く気持ちが伝わってくるなどが挙げられます。本冊子に作品が多数掲載されていますので、全国の小・中学校における書写の学習の際に、参考にしてほしいと思います。

現在、小・中学校では、児童生徒がＩＣＴ端末を文房具のように日常的に活用することで、効果的に学習を進められるようになりました。例えば、自分の考えを文章に書き表すときなどに、端末を使用して「文字を打つ」ことにより、入力した文字を容易に消したり、付け加えたりすることができるようになり、より自分の考えにふさわしい表現を試行錯誤して考えられるようになりました。しかし、その一方で、姿勢や筆記具の持ち方を正しくして「文字を書く」ことが疎かにされてしまうようなことはないでしょうか。姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、丁寧に「文字を書く」ことで、気持ちを落ち着けて自分の考えや思いを見つめ直しながら表現することや、毛筆を用いて、筆圧や強弱のあるリズミカルな運筆を体で感じながら文字を書く楽しさを実感することなどは、文字を文化として認識し、その豊かさに触れながら効果的に文字を書くことにつながる大切なことです。今後も、本展覧会への出品などを一つの目標にして、学校などで学習した成果を存分に発揮し、楽しみながら文字を書くことを大切にしてほしいと思います。

終わりに、参加した児童生徒の皆さん、指導に当たられた全国の先生方、優しく見守ってくださった御家族、大会運営に御尽力いただいた関係各位に心より感謝申し上げます。全国書画展覧会が、日本の書画に関する教育の発展に多大な貢献を続けられていますことに深い敬意を表すとともに、一層の御発展を祈念しまして審査講評といたします。

全国書画展覧会（絵画の部）の審査を終えて

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官　小林恭代

今年も、たくさんの作品と出会うことができました。絵は、見る人に多くのことを伝えてくれます。審査では、一人一人の表したい思いを想像しながらじっくりと見ていく中で、様々なメッセージを受け取りました。自分の表したいことをどうやったら表せるか、一生懸命考えながら表してくれたのだと思います。児童・生徒の皆さんの努力と、先生方のご指導、ご家族の励まし、大会運営に携わった皆様のご尽力に、心より感謝申し上げます。

今、私たちの生活は日々変化していています。私たちの生活はとても便利になり、多くのことをコンピュータやロボットがしてくれるようになりました。変化の大きい今の時代には、その変化を前向きにとらえ、自分で考え、表現していくことがいっそう大切になります。

絵に表すことを通して、皆さんは様々な力を身に付けています。例えば、自然の美しさに感動したり、人とのふれあいに温かさを感じたりするなど、さまざまなものや出来事を心に感じ取る力。「こうなったらいいな」「こんなことをしてみたいな」と、豊かに想像する力。自分が表したいことを見つける力や、どうやって表していくか考える力。表したいことに合わせて材料や用具を使う力や、表し方を工夫して表す力。うまくいかないときでもあきらめず、粘り強く最後までやりきる力などです。自分の思いをもとに表現することは、人間だからできること、そして心豊かなことでもあるのです。

どうぞこれからも、自分らしさを大切にし、絵に表すことを楽しんでいってください。次に、様々な力を働かせて表された作品を３点紹介します。

（１）　内閣総理大臣賞

朝焼けに染まる外の世界へ、鳥たちが今飛び立とうとする瞬間をえがいています。木の穴の中から外を見ている構図で、鳥たちの表情は見えません。希望に目を輝かせているのか、これからの生活に少しの不安も抱いているのか…それは、この作品を見る人に委ねられています。光に照らされた外の鮮やかな色に対して、巣の中はぐっと抑えた色になっており、その対比からも、「巣立ちの時」という題名に込めた作者の思いを感じます。表現の意図を明確にもち，よりよい表現を目指して創意工夫を続け，創造的に表したことが伝わってきました。

（２）　文部科学大臣賞　小学生の部

「まぼろしの花」を想像することをきっかけにして、自分が頑張っているサッカーの花を表すことを思いつき、はっきりとした感じの色を組み合わせて表しています。この作品に出合った時、今にも動きだしそうな勢いを感じました。花は、うなりをあげて回転するボール、茎は、ボールがゴールにささるまでの軌跡のようです。花の周りにも、大きさを変えた丸い形や、向きを揃えた線を組み合わせることで、よりスピードを感じます。自分の身体で感じたことを、形や色で表しています。日々、ゴールを目指してボールを蹴り続けている城間さんだからこそかけた絵ではないでしょうか。

（３）文部科学大臣賞　中学生の部

この作品に出合った時、まず、色の変化の美しさを感じました。次に、作者はどのようなことを表したかったのだろうと思いました。「今日を振り返る」という題名を見たときに、ああそうか、登ってきて振り返ったところなのかと、もう一度絵を見てみました。灯篭が照らす急な石階段を登って振り返った先には赤い鳥居があり、その向こうは夕闇で見えません。視線を上げると、灯りのともった人々が暮らす街並みがあり、雄大な山々と茜色に染まった空が広がっています。何気ない風景に美しさを感じ、そこに物語を見いだして表そうとした、作者の豊かな感性を感じました。

今回の審査を通して、児童・生徒の皆さんが、絵に表すことで様々な思いを伝えてくれたことを大変うれしく思いました。

自分の表したいことを見付け、表し方を工夫して表すということは、絵のみに限らず、生きていく上でこれからも大切になっていく力です。自分の身体を通して感じたこと、想像力を働かせて思い描いたことを、のびのびと表現できることが大切であると感じます。引き続き、先生方には子供の思いを受け止め、つくりだす喜びを大切にしたご指導をお願いいたします。また、家庭、地域の皆様には、引き続き学校教育活動に一層のご理解をいただき、連携を深めていただけたらと思います。

最後に、「全国書画展覧会」の一層のご発展を祈念いたしまして、審査講評といたします。